

## 関西特許情報センター振興会創立 50 周年記念事業 特許検索競技大会開催報告

桐山 勉\*

関西特許情報センター振興会の創立 50 周年記念事業として特許検索競技大会が 6 月 17 日に開催され、39 名が参加した。優秀な成績を取った 2 名が 7 月 27 日に開催された創立 50 周年式典で表彰された。この特許検索競技大会は、日本特許を対象に検索システムとして特許庁 IPDL と希望する二つの商用システムを利用して合計三つの検索システムを駆使して行うものであった。試験問題は、電気・機械分野、化学・ナノテク分野、バイオ・医薬・食品分野の 3 分野から 1 分野の問題を選択して、該当する特許情報を検索するものであった。採点評価は、検索結果の正否、検索プロセスの妥当性、提案力の 3 観点から総合的に行った。この特許検索競技大会を企画・実施・採点評価した立場から、この大会を振り返ってその概要を報告する。

キーワード：特許検索、競技大会、関西特許情報センター振興会、50 周年、記念事業、オンライン、商用システム、評価、検索結果、検索プロセス、提案力

### 1. はじめに

昭和 32 年に、大阪府立図書館の内外特許資料を中心とする科学技術文献の利用促進を目的として、関西文献センター振興会が発足し、資料の収集・整備の協力等の事業が行われてきた。平成 9 年に特許情報サービスの総合拠点として関西特許情報センターが開設されたことに伴い、関西特許情報センター振興会に改称し、この度めでたく創立 50 周年を迎えるに至った。

そこで、関西特許情報センター振興会では創立 50 周年を記念して「特許検索競技大会」を開催することとなった。

### 2. 背景と意義

昨年の初冬に淡路島で開催された知財協 OB 会に、奈良先端科学技術大学院大学の先端科学技術研究調査センター教授であり発起人の久保浩三弁護士が、知財協の特許情報検索委員会の元委員長の中出氏を訪ねて、OB 会に特許検索競技大会の企画・実施・評価を一任されたのが始まりであった。

筆者も実行委員会への参加要請を受けて、社団法人情報科学技術協会（当会）も協賛することになり、当会の専門部会（SIG）の「パテントドキュメンテーション部会」の「外部の知財団体への活動支援活動」の一環として「特許検索競技大会」の実行委員会に参画することになった。

この特許検索競技大会の意義と目的は、特許検索技術者の意識高揚を図り、技術の発展に対応した検索技術の向上に寄与するためであり、特許調査に携わる方や知財を学ぶ学生の方等を参加対象者にした。このような特許情報の検索技術をオンラインで数十人の競技者が一堂に会して競う

大会は、日本だけでなく世界でも初めての挑戦的な企画である。それだけに関西特許情報センター振興会の創立 50 周年記念事業にも相応しいイベントであった。

### 3. 競技大会の準備と苦労話

13 人からなる実行委員会は、各種公共機関と各種大手企業・特許事務所の出身者であり、日本知的財産協会の活動で多大な貢献をした人達も多かった。さらに、(社)情報科学技術協会の検索技術認定試験の企画実行の経験者が二人含まれていたことが準備業務では幸いした。

まず、第一の苦労は企画内容を具体的に取り決めることであった。実行委員会のメンバー数は確かに多いかも知れなかったが、メンバーの各自が頭の中に描いているイメージがあまりにも抽象的であり具体性に乏しかった。そのため、公表する直前になり漸く企画内容を固定するに至った。決まり次第、関西特許情報センター振興会のホームページから情報を発信した。また、リンク機能を利用して協賛していただけることになった各機関のメールマガジンと月刊専門誌において正式案内が掲載できるに至った。

第二の苦労は、協賛してもらう知財関係機関の個々の機関と団体に了解を得ることであった。率先して協賛承諾をいただいた(社)日本知的財産協会 (JIPA)、(社)情報科学技術協会 (INFOSTA)、技術情報サービス懇談会 (ATIS) 等に感謝する。また、特許情報のセンター的な存在である(独)工業所有権情報・研修館の協賛を得たことは心強いことであった。

第三の苦労は、試験問題をどのように選び、適切な試験問題に作り上げるかであった。実行委員メンバーの各自が少なくとも 1 問以上の問題案を試作し、相互に発表しあった。いろいろな視点と観点から問題を試作したが、創立 50 周年記念事業に相応しい問題かどうかでなかなか適当な問題のレベルまで磨き上げられなかった。そこで、下記の基本方針を決めるに至った。

\*きりやま つとむ (株)帝人知的財産センター、OB 嘱託  
〒100-8585 千代田区内幸町 2-1-1 飯野ビル  
Tel. 03-3506-4450 (原稿受領 2007.8.6)

- ・最近興味を持たれている技術トピックスに絡む問題とする
- ・単なる技術の調査でなく複数の分野の境界領域にも絡む問題とする
- ・日本におけるオンライン特許情報検索の王者を決める環境とし、そこで検索できるテーマとする
- ・少なくとも 30 人以上の競技者が一堂に会して同時に競える、選択もできる問題と環境にする

具体的に問題の概要をほぼ決めてから模範解答を作成し、正解の解答をお互いに準備し合い、実行委員会のメンバー全員が納得の行くようにするのに数ヶ月の時間と労力を結果的に要した。

第四の苦労は、40 台のパソコンをオンラインで接続し、インターネットと日本特許庁の電子図書館 (IPDL) の他に、参加者の希望に合わせて有料の二つの検索システムを準備することであった。プロバイダーの 11 社から快く協力を得られたことが最高の幸運であった。特許検索競技大会は 6 月 17 日 (日曜日) であったため、その準備に前日の土曜日に各プロバイダーの関係者に大変お世話になった。この準備が成功したために、当日の競技大会が成功裏に達成できた。現代のように、ウイルス問題が懸念される時代だけに、沢山のパソコンと検索システムをご好意で無料で提供していただいたことに心から感謝する。

第五の苦労は、実行委員のボランティア精神によって運営されたことである。予算は限定されており、交通費以外は完全に無賃の完全ボランティア組織で実行された。知財協 OB 会というお互いの信頼関係がすでに築かれていたために、「引き受けた以上は最後までやり抜こう」という暗黙

の了解が醸成されていたために、奇跡的に目標が達成できた。これだけのエネルギーを今後ともボランティア活動を基盤にして継続するには問題がある。

## 4. 実施

特許検索競技大会の案内と募集要領は、関西特許情報センター振興会の URL アドレス<sup>1)</sup>に詳細に掲載された。リンク掲示が永く保存されるかわからないので、図 1 と図 2 に示す。

### 4.1 日時と場所

特許検索競技会には 54 名の参加申込があった。募集案内の通りに厳正な抽選を行い、募集枠の 40 名に絞り込んだ。残念にも抽選に漏れた申込者には、実行委員会として企画力が十分でないことを反省し、謝意を表す。実際のオンラインによる特許検索競技大会は平成 19 年 6 月 17 日 (日) の 13 時から 17 時までの 4 時間にわたり、関西特許情報センターの 2 階で実施した。

### 4.2 検索環境と条件

検索システムとして、日本特許庁の電子図書館 (IPDL) と競技参加者の希望する二つの有料商用検索システムを準備した。このような日本で初めての、否、世界で初めてのオンライン競技大会の環境が準備できたのは偏に日本の商用サービスプロバイダー各社のご理解とご支援があったからである。協力をいただいたプロバイダーは図 2 の申込書に記載した。

## 初の特許検索競技大会！参加者募集！

特許調査等に携われる方、知財を学ばれる学生の方等、挑戦してみませんか？

※参加申込用紙はこちらをクリック

### 関西特許情報センター振興会創立50周年記念事業

# 特許検索競技大会

～技術の発展に対応した検索技術の向上に寄与するために～

| 運営 創立50周年記念事業実行委員会(特許検索協会設立部会) |  |
|--------------------------------|--|
| 日時                             | 平成19年6月17日(日) 13:00~17:00  |
| 場所                             | 関西特許情報センター 2階 大阪府立特許情報センター 閲覧室<br>大阪市天王寺区伝人町2番7号   |
| 募集人員                           | 40名 (応募者が多数の場合は、事務局で厳正に抽選を行ない決定)   |
| 参加費                            | 無料 (ただし、交通費は自己負担)  |
| 申込受付                           | 平成19年4月2日(月)~5月18日(金)  |
| 受付方法                           | 関西特許情報センター振興会ホームページにてご案内<br>Eメール 又は FAXにて受付<br>ホームページアドレス <a href="http://www.k-pic.jp">http://www.k-pic.jp</a><br>FAX 06-6772-3617 ※参加申込用紙はこちらをクリック   |
| 参加証                            | 平成19年5月31日(木)発送 (※当日ご持参ください)   |
| 出題                             | 国内特許調査<br>複数題から1題選択して解答  |
| 競技方法                           | 競技問題は当日配布し、問題用紙は終了後回収<br>参考書の持ち込み可 (ただし、閲覧室所蔵図書は使用不可)<br>競技問題を解答するための必要な関連情報のインターネットによる情報検索可<br>検索用パソコンによるメールの送受信 及び プリント出力 及び 携帯電話の使用は不可  |
| 利用可能データベース                     | IPDL インターネット版(全機能利用可能) HYPAT Web PATOLIS-WEB<br><IPDL 以外の利用は2種類を選択> JP-NET PATOLIS-C/W<br>ATMS NEF-NET2 PATOLIS-J<br>CKS Web NRI サイバーパテントデスク RIPWAY<br>DocuPat プライベートサーバーサービス PanapatlicsDSS Sharesearch |
| 利用可能検索機器                       | インターネットに接続できるデスクトップ型パソコン 又は ノート型パソコン<br>OS: Windows XP 又は 2000<br>かな漢字変換MS-IME (ATOK不可)  |

|               |  |
|---------------|--|
| 会場・機器<br>環境確認 | 平成19年6月16日(土) 15:00~16:00 (希望者のみ)  |
| 結果の告知         | 関西特許情報センター振興会ホームページ  |
| 表彰等           | 平成19年7月27日(金)「創立50周年記念式典」にて<br>上位入賞者に表彰状 及び 賞品の贈呈  |
| 主催            | 関西特許情報センター振興会  |
| 後援            | 大阪府 技術情報サービス懇談会(ATIS)<br>近畿経済産業局特許室 (社) 情報科学技術協会(INFOSTA)<br>(株)工業所有権情報・研修館 日本知的財産協会   |
| 協力            | NRIサイバーパテント(株) 日本パテントデータサービス(株) 富士ゼロックス(株)<br>(株)ジーサーチ (株) 発明通信社 松下電器産業(株)<br>中央光学出版(株) (株)ハトリス リコーテクノシステムズ(株)<br>日本発明資料(株) (株)日立製作所   |
| 会場案内          |  <p>ご注意！ 駐車場はありません。</p> <p>新幹線ご利用の場合の一例<br/>新大阪駅<br/>↓ (地下鉄御堂筋線)<br/>梅田駅<br/>東梅田駅<br/>↓ (地下鉄谷町線)<br/>四天王寺前夕陽ヶ丘駅<br/>↓ (徒歩約5分)<br/>関西特許情報センター</p> <p>＝お問い合わせ先＝<br/>関西特許情報センター振興会<br/>大阪市天王寺区伝人町2番7号<br/>TEL 06-6772-3616<br/>FAX 06-6772-3617<br/><a href="http://www.k-pic.jp/">http://www.k-pic.jp/</a></p> |

※参加申込用紙はこちらをクリック

図 1 参加者募集案内

**◇特許検索競技大会参加申込書◇**

(お願い)内容をよく読みの上、ご記入ください。

■ 連絡先：参加証の送付等のご連絡のためにご記入いただくものです。  
自宅又は勤務先についてお書きください。<★印は必須>

|         |  |
|---------|--|
| フリガナ    |  |
| * 氏 名   |  |
| 住 所     |  |
| * 又は    |  |
| 所 在 地   |  |
| 名 称     |  |
| 部 署     |  |
| * T E L |  |
| F A X   |  |
| * 又は    |  |
| Eメール    |  |

■ 希望利用システム(国内)：以下の商用データベースから、2種類を選んでください。

|                              |                  |             |
|------------------------------|------------------|-------------|
| ※ <sup>1</sup> IPDL インターネット版 | HYPAT Web        | PATOLIS-WEB |
| ATMS                         | JP-NET           | PATOLIS-G/W |
| OKS Web                      | NEF-NET2         | PATOLIS-J   |
| DocuPat プライベートサーバーサービス       | NRI サイバー/プリントデスク | RIPWAY      |
|                              | PanapatticsDSS   | Sharesearch |

※<sup>1</sup> IPDL インターネット版は、すべての検索機器において利用できます。  
\* IPDL インターネット版のみのご利用はデスクトップ型パソコン、商用データベースのご利用はノート型パソコンによる予定です。ご了承ください。  
\* OS は WindowsXP 又は 2000 です。  
\* 専用ブラウザ以外は IE、入力変換は MS-IME です。(ATOK 不可)  
\* 検索用パソコンによるメールの送受信・プリント出力・携帯電話の利用はできません。

■ お尋ねになりたいことがあればお書きください。

※記載された情報は、本特許検索競技大会の目的以外のために使用いたしません。

運営：創立50周年記念事業実行委員会(特許検索競技会設立部会)

問い合わせ先：関西特許情報センター(振興会)

TEL 06-6772-3616 FAX 06-6772-3617 <http://www.k-pic.jp/>

図2 特許検索競技大会参加申込書

### 4.3 問題概要

特許検索競技大会の試験問題の著作権を有する関西特許情報センター振興会の特許検索競技大会実行委員会の許可を得て設問の概要を表1に示す。

### 4.4 受験風景

6月17日の試験中の写真の著作権も、関西特許情報センター振興会の特許検索競技大会の実行委員会が所有し、その委員会の許可を得て受験風景を掲載する。

受験者の全員が、一台一台のパソコン(ノート型、またはデスクトップ型)を利用し、予め申し込んだ二種類の商

表1 オンライン特許検索に出題された設問の概要

|             |  |
|-------------|--|
| 3分野から選択する分野 | オンライン特許検索に出題された設問の概要   |
| 電気・機械分野     | 「交換レンズ毎のデータを利用して撮像素子の駆動量を補正する技術」を採用した「デジタル一眼レフカメラでのボディ内蔵手ぶれ補正システム」                             |
| 化学・ナノテク分野   | 有機Si系の原料を特定条件下で共重合させることにより膜厚方向の細孔率を連続的に変化させ、基板への密着性に優れた超細線化高密度LSI用の絶縁膜                         |
| バイオ・医薬・食品分野 | 植物のちからに関して、図示された化合物(A)を含む茶、および、図示された化合物(B)または、(C)、(D)の誘導体、(E)を含む竹の、「両方(茶と竹)の抗菌性の相乗効果(または併用効果)」 |

用(有料)の検索システムと、特許庁IPDLと、インターネットを自由自在に活用して解答を作成するというものであった。わき目も振らずに集中した4時間の真剣勝負の様子が観える。

### 4.5 創立50周年記念式典と特許検索競技大会の表彰式

記念式典は、7月27日の午後には大阪国際交流センターにて大阪府来賓、特許庁来賓を交えて厳かに盛大に行われた。その式典の中で、特許検索競技大会の実行委員長の中出氏から講評と優勝者と準優勝者の発表があり、賞状と記念品の授与が行われた。その様子を図4に示す。

優勝者と準優勝者の氏名(所属)および利用した商用検索システムを下記に記す。

優勝者：酒井美里氏 ((有)スマートワークス)

利用システム：①JP-NET, ②DocuPatPSS

準優勝者：原 潔氏 ((株)アイピックス)

利用システム：①PATOLIS-C/W, ②HYPAT-Web



図3 特許検索競技大会当日の様子



図4 代表受賞する酒井美里氏

## 5. アンケート分析

受験者の無記名有志から得られたアンケートの結果の代表的なものを下図に示す。参加者の半数以上が電気と機械を得意な技術分野とする人達であった。問題の難易度も半数以上の参加者が丁度良いと答えている。また、4時間の試験時間についても約4分の3の人が丁度良い時間の長さと答えている。実際に解答を作成した受験者の半数弱が特許調査の経験年数を6年以上から20年以上と答えており、

特許検索の多数の熟練者が実際に参加したことが確認できた。

## 6. 採点と評価

### 6.1 評価方法

3分野の採点は、共通の採点配分の大枠を下記の表の如く決めて実施した。また、採点は3分野ごとの問題作成に関係したグループメンバー全員で、3分野ごとに採点し、各分野の上位3人を選び出し、それらの中から、創立50周年記念事業として開催した特許検索競技大会の上位者に相応しい解答者を選んだ。

表2 採点配分

| 評価項目                            | 採点配分 |
|---------------------------------|------|
| (1) 検索結果 (設問に適切に合致した特許番号 10件以下) | 50点  |
| (2) 検索式を誘導した理由 (検索のプロセス)        | 40点  |
| (3) 検索結果と検索プロセスをもとにした提案         | 10点  |

予め実施委員会で、3分野の該当特許をお互いに検索しあい、該当(◎印)、関連該当(○印)、関連分野のものであるが設問に合致しないもの(ー)、本主題のノイズ(X)の4段階に区分して、リストアップしておいた。また、本番の特許検索競技大会で予想した特許群以外の特許を記載

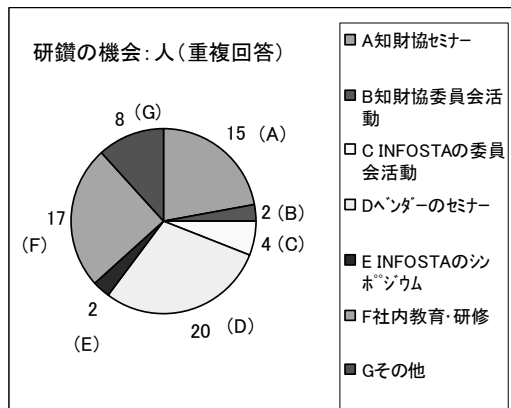
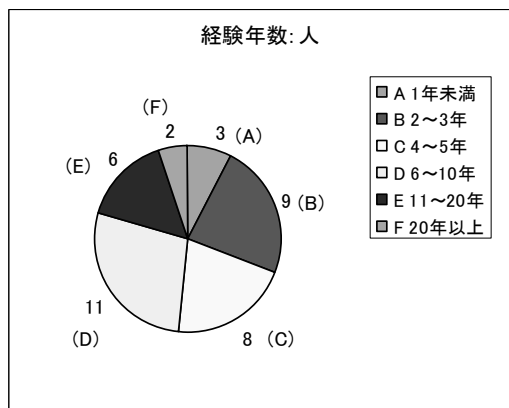
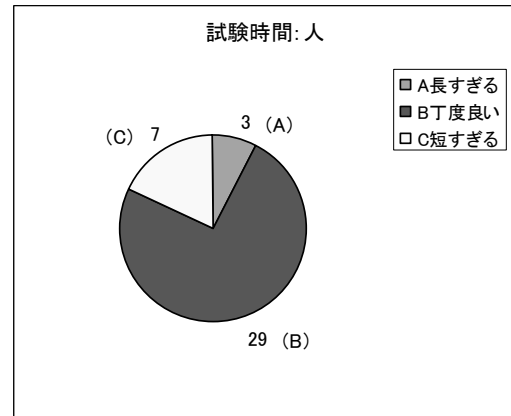
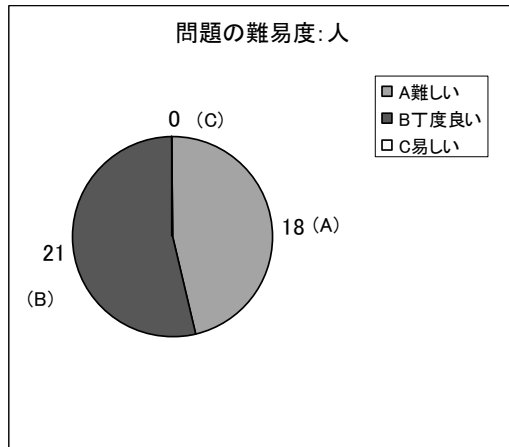


図5 アンケート結果の円グラフ

する解答者があった場合には、それらの1件ずつの明細書を読んでチェックすることに予め決めておいた。実際の解答の中には、リスト外の○印、－印、X印のものが予想外に多く、採点する段階でも苦勞するという作業が増えた。

## 6.2 採点結果

解答者の具体的な事例を用いて採点結果のコメントをすることはできないので、モデル図で示す。シューティング・ゲームの的にモデル図にて、優勝者、准優勝者、第3位から第8位、第9位から第15位のイメージ図を示す。

優勝者は4時間の短時間に該当◎印と関連○印を殆ど見つけているが、第3位から第8位の参加者は本来見つけ出すべき情報の約半分しか見つけていない。この両者の差は、極めて大きなレベル差である。それ以下の順位の方は、該当特許を見つける可能性が低く、逆に、ノイズも拾ってくるという状態である。該当とノイズの違い、つまり、主題テーマの把握が正確でないということが判明した。

以上から、当初は表彰者を上位の3人(金、銀、銅)と決めていたが、予め決めていた採点基準詳細に基づいて採点して複数採点者の平均点数が60点以上を得た参加者だけを創立50周年記念事業に相応しい表彰者と考え、上位の2名だけを表彰することに結論した。二人の成績は他のものより抜き出していた。

## 6.3 採点にて感じたこと

### 6.3.1 何故該当特許(◎印)を見つけないことができるのか

問題の3分野とも◎印の該当が複数存在する。そのうち1個だけを見つけている人は多いが、複数の正解を列挙できている人は少数であった。○印に相当する部分は10件近くのにぼるため、この10件リストアップの作業により高得点者が続出すると予想したが、実際の採点結果は予想とかけ離れていた。最近の特許検索システムでは、何らかのヒット件数が出るようになっている。つまり、概念(類似)検索は該当・非該当も関係なくスコアの低い順に数百件を表示する。また、言葉だけで検索すると、全文の明細書の範囲から検索すると膨大な件数がヒットする仕組みに

なっている。つまり、ひと昔前の抄録だけのPATOLISではブーリアン検索では0件ヒットが多かったものが、最近では何らかのヒットが出るような仕組みに変わっている。つまり、主題テーマの正確な把握と、主題テーマに適したIPC、FIおよびFタームを同定できていないことが、原因の一つと考える。

### 6.3.2 検索技術の基礎を何故実行しないだろうか

どの分野にも当てはまる **ABCD 則**があることを皆さんはご存知だろうか。トップセールスレディー育成塾を営んでいる朝倉千恵子さんが主唱しておられる規則<sup>2)</sup>である。(A)当たり前のこと(基礎)を、(B)馬鹿にしないで、(C)ちゃんとやる人が、(D)できる人(有能な人・成功する人)であるという基本ルールだそうだ。仕事のできる人で、このABCD則から外れて成功した人はないとも述べている。

筆者は検索技術においてもこのABCD則から逃れることができないと判断し、引用した。さて、検索の段階の基礎とは何だろうか。先ずすべきことは、①主題を正確に把握しているか確認する、②味見検索で見つけた該当特許または該当に極めて近いものを参考にして技術用語の同定(同義語、表現の揺らぎ)と特許分類コードの解析をする、③検索式を複数考える(絞り込み、漏れ対策、ノイズ対策)、④優先順序をつけて、明細書を読み内容確認する。この4段階が中小規模の検索母集団を調査する場合の最小プロセスでなかろうか。

### 6.3.3 検索の段階でやってはいけないを何故するのであるのか

次に、今回の特許検索競技大会の解答例を見ながら、このような検索はやらない方が良いというもののポイントを説明する。

- ・少数の技術用語だけの検索により、同義語をあまり意識しない、または表現の揺らぎを無視した検索式の作成は好ましくない。

統制語辞書を持っているのはPATOLISサービスのFKコマンド検索であるが、その他のシステムでは統制語辞書を有していないのが一般的である。そのため、考えられる同義語表記と異表記を用いない検索式は好ましくない。

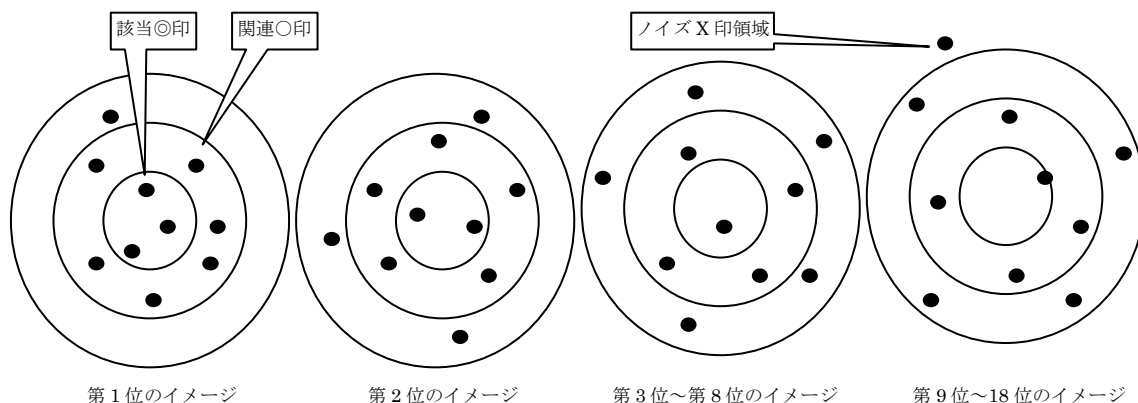


図6 解答の該当状況を示すイメージ・モデル図

- ・最適な特許分類コードを探すために、統計処理機能を利用する。例えば、PATOLIS のランクコマンド機能を活用する。そのために本競技大会の実行委員会では希望する商用プロバイダーを2社にせざるを得なかったのである。一つは自分の通常使っている得意な検索システムを選ばせ、もう一つはランクコマンド機能を利用して特許分類コード解析をしてもらうためにはPATOLIS を必ず使える環境にせざるを得なく、希望する商用プロバイダーを2社に拡張したのである。だから、概念(類似)検索の結果を統計処理し、順位の高いIPC(またはFI)を鵜呑みにして単純にIPC(またはFI)を特定するのは注意を要する。鵜呑みするのは好ましくない。今回の解答例の中で、該当◎印を見つけることができなかつた要因に、最適なIPC(またはFI)を検索式に利用していないことを筆者は挙げる。
- ・ノイズが少ない検索式を作るには、ターゲットを狭く設定して複数の検索式により求めた小集団の和にするのが好ましい。そうではなく、ターゲットを広くしてノイズも多く含ませた状態で、急に専門用語の複合語の一つか二つで絞り込むのは好ましくない。該当の◎印がすると抜ける危険性がある。
- ・検索母集団が大きくなったからといって、NOT 演算式を容易に多用するのは好ましくない。NOT 演算式により該当◎印の特許がせっかく求めた母集団から抜け落ちる可能性が極めて高いから好ましくない。
- ・明細書を読む際に、できるだけ該当◎印が含まれる可能性が高い集合から優先的に読まない、つまり、読む時間の削減化・省力化を考えない明細書の読み方は好ましくない。
- ・試験時間の全体枠の4時間を全体的に想定した時間スケジュール目標を立てずに取り組みのは好ましくない。明細書読み込み時間>>検索式作成時間>インターネットによる予備調査の時間消費のバランスを持たないのは好ましくない。
- ・最も集中力を発揮しなければならないのは、特許分類コード解析と検索式の作成である。その他のところに主要な精力とエネルギーを消費しすぎるのは好ましくない。

#### 6.3.4 期待される解答に含まれるべきモノ

紙面の制限の都合があるので、3分野のうちの電気・機械分野だけに対して具体的に説明する。期待される解答に含まれるべきモノの具体例を、表3に示した。試験問題と解答採点詳細の著作権は、関西特許情報センター振興会の特許検索競技大会の実行委員会が有しているので、許可を得てその概要を記載した。また、関西特許情報センター振興会主催のセミナーを年内に企画計画なので、そこでもう少し詳しく、(A) 試験問題説明と、(B) 期待される解答に含まれるべきモノの解説と、(C) 解答採点詳細基準の解説について、筆者が口頭またはパワーポイントによるスライド説明ができるのでないかと考えている。

表3 期待される解答に含まれるべきモノ

| 期待される項目                   | 電気・機械分野における期待される解答に含まれるべきモノ  |
|---------------------------|--|
| ① 技術テーマの正確把握              | 手ぶれ補正機構として4つがあることが問題に添付された資料に記載されている。その4つとは、電子式手ぶれ補正・光学式手ぶれ補正・撮像素子駆動式手ぶれ補正・レンズユニットスイング式手ぶれ補正である。試験問題は、撮像素子駆動式であり、レンズ情報を駆動量に反映させることにより補正精度を上げようとするものである。      |
| ② 技術用語の同義語・類似語、表現のゆらぎへの考慮 | ・撮影素子、CCD、他<br>・像振れ、像ぶれ、像ブレ、手振れ、手ふれ、他<br>・交換レンズ、レンズ情報、他<br>・カメラボディ、カメラ本体、カメラ内蔵、他   |
| ③ 適切な特許分類コードの把握と利用        | ・FI ; G03B5/00 F H J, H04N5/232 Z<br>・G03B17/14<br>・Fタームは改廃されているので、新Fターム5C122, 5C024 (CY21 CY23) および旧Fターム5C022 (AB46 AB55) も活用する。                            |
| ④ 検索式の複合化と、小集団の和の集約化      | ・予備検索と本検索と絞り込み検索とモレ防止対策とノイズ減らしなどを考慮して1個の検索式にすることは無理である。そのため、複数の小集団検索式を作成し、集合和を求める際に、論理的な整理思考をして解り易く展開しているか。また、分類毎、本分類、モレ防止、ノイズ減らしのための絞り込み用「技術用語」は使い分けるべきである。 |

実際に参加された人は、この表を見ればご自分の解答に対してどこが良くて、どこが足りなかったのか判断するのに役立つはずである。また、試験問題の概要を読んで実際に演習をやろうとする人にも役立つものと考えている。

#### 7. さいごに

この特許検索競技大会の意義と目的は、特許検索技術者の意識高揚を図り、技術の発展に対応した検索技術の向上に寄与するためである。知的財産情報に携わるサーチャーだけでなく、知的財産関係者の皆様から多大な興味と注目を浴びた点では大きな貢献ができた。さらに、特許検索システムを扱うプロバイダー各社からも熱い注目を受けたことで、大きな貢献ができた。このような特許情報の検索技術をオンラインで数十人の競技者が一堂に会して競う大会は、日本だけでなく世界でも初めての挑戦的な企画であった。それだけに関西特許情報センター振興会の創立50周年記念事業にも相応しいイベントであった。

今回のオンライン特許検索競技大会は日本で初めてのユニークな企画でありながら成功裏に終了できた。目には見えない沢山の企画実行ノウハウが競技大会の実行委員会に蓄積された。現在活躍するサーチャーの実状を示唆する貴重なデータが得られた。

今後の課題として「サーチャーの検索技術力をどのように向上させていくべきか」が浮かび上がってきた。今後は、ことあるごとに特許検索競技大会の事例を紹介しながら、いろいろな検索技術の向上に対する方策を機会あるごとに情報発信をする。

参 考 文 献

- 1) 関西特許情報センター振興会の特許検索競技大会の案内  
<http://www.k-pic.jp/topics/tokkyokensaku.pdf>  
[accessed 2007-08-05]
- 2) 朝倉千恵子氏が主唱する ABCD 則. PHP のビジネス雑誌.  
2007, THE21, no.271, p.24-25.

**Special feature** : Intellectual property. The 50<sup>th</sup> anniversary event of Association for Kansai Patent Information Center. The report on Patent Information Search Contest. Tsutomu KIRIYAMA (TEIJIN INTELLECTUAL PROPERTY CENTER LIMITED, Non-Regular Staff, Iino Bldg., 1-1 Uchisaiwaicho, 2-chome, Chiyoda-ku, Tokyo 100-8585 JAPAN)

**Abstract** : The Patent Information Search Contest was held on 17<sup>th</sup> June at Association for Kansai Patent Information Center as the 50<sup>th</sup> anniversary event. 39 participants challenged for the online search contest by using three search systems, ex. IPDL and two commercialized search systems. Every participant could select one search-theme from three fields, ex. electric & machine, chemistry & nano technology, and bio & medicine & food. The report was explained from the view of planning, execution, grading and evaluation. The contest purpose is to raise mind & consideration and search technology of patent information searchers.

**Keywords** : patent information retrieval / contest / The 50<sup>th</sup> anniversary event / Association for Kansai Patent Information Center / online / commercialized search system / grading and evaluation / search result / search process / proposal ability